

2024年度文部科学省委託事業

「学校図書館の整備・活用を進めるための説明・研修資料の作成」



豊かな授業づくりに 学校図書館を！

授業に使う
ための
資料がほしい

作家の
作品一覧
ブックリストが
ほしい

〇〇についての
最新データが
ほしい

学校図書館の
使い方指導を
してください

修学旅行に
関連した資料を
集めてください

この町の
災害対策を
知りたい

郷土の資料が
ほしい

パスファインダー
を作っ
てください

こんな時は
学校図書館に
ぜひ相談を！

〇〇についての
ブックトークを
してください

引用や参考文献の
書き方を児童生徒が
端末から確認でき
るようにできますか

探究的な
学習をT2で
支援してください

Webサイトの
リンク集を
作ってほしい

新聞の
つくり方の
資料は
ありますか

著作権の
指導を
してください

各自がテーマを
絞るにはどんな
手法がありますか

情報収集の方法や
検索のキーワードの
入れ方などを教えて
もらえますか

印刷資料もデジタル資料も、郷土資料も、公共図書館や博物館等との連携も
学校図書館は、さまざまなニーズにお応えします



1 学校図書館はどんな教科で使われている？

学校図書館の活用というと国語や社会、総合的な学習の時間などを思い浮かべることが多いと思いますが、**どんな教科でも、また特別活動などでも使っています。**ここで例にあげた教科や、委員会・給食だけでなく、もっともっと可能性が広がります。

▶算数・数学科

グラフの授業で統計資料を活用

▶国語科

児童生徒によるブックトーク

▶社会科

新聞記事からスピーチ

▶保健体育科

生活習慣病を調べて発表

▶道徳

新聞記事から人権問題を探す

▶家庭科

郷土料理を調べて日本地図作成

▶英語科

教科書に出てくる人物調べ

▶体育科+美術科

体のつくりと運動

▶国語科+社会科

国語科で新聞の指導 →
社会科で歴史新聞づくり

▶音楽科+美術科

歌の背景や風景を調べて絵を描く

▶社会科

世界の国調べ

▶理科

天体を調べてクイズ作成

▶家庭科

保育 絵本の読み聞かせの練習

▶音楽科

作詞家・作曲家調べ

▶数学科

生活の中の二次関数さがし

▶美術科

絵画作成の下絵さがし

▶国語科

竹取物語 平安時代の暮らし調べ



学校図書館に相談すると、「こんな授業例がありますよ」や「こんな資料もありますよ」など、いろいろな情報を紹介してくれます。

▶委員会活動

保健委員会で冬の健康ポスター
福祉委員会で地域の課題を提案

▶職業調べ

オンライン通信等でインタビュー

教科横断学習やカリキュラム・マネジメントも！

学校図書館が間に入って情報交換すると、教科横断学習もやりやすくなります。週1・2時間しかないような教科でも、コラボすると幅広い授業が展開できます。

*** 学年担任全員で取り組み、段階的に発展させ繰り返して定着した例**

小学校3年生

- 1 学期 加工食品調べでは、初めての調べ学習で紙の百科事典を中心に。
- 2 学期 地域探検では、デジタル情報など扱うメディアを増やし、学校司書が支援、技術的なことはICT担当者が支援。学習の楽しさを実感し、探究学習への意欲が高まった。

*** 教科の広がりや多様な情報活用が生まれた例**

中学校1年生

- 1 学期 国語で初めての調べ学習。
- 2 学期 ものづくり体験の事前学習を学年教員全員で行ったことで、生徒が生き生きと活動することを実感し、保健体育や社会など、他の教科に広がる。
- 3 学期 書籍とインターネット比較、新聞活用など、扱う情報が広がる。



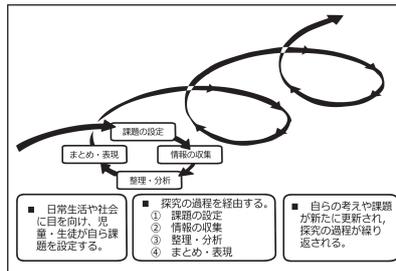
授業者1人では大変…

2 学校図書館は探究学習の強い味方です！
課題の設定も、情報の収集も、まとめ方も…

課題の設定

本棚を眺めたり知っていることを話し合ったりするだけでもヒントに。
本当に調べたいこと・知りたいことを見つける手法を提案できます。

探究的な学習における児童の学習の姿



(小学校学習指導要領(平成29年告示)解説) 総合的な学習の時間編(文部科学省)より)

※中学校、高等学校学習指導要領も同様の記載があります。

情報の収集

本の探し方だけでなく、Webサイトや体験施設などの相談も。
パスファインダー(※1)で調べ方の提示や、Webサイトの検索のキーワードの入れ方なども支援できます。

整理・分析

全体の構成や説得力を増すための方法なども相談できます。

まとめ・発表

レポートの書き方、プレゼンの方法も提案できます。

思考ツール(※2)

課題の設定や整理・分析などの便利なツールも提案できます。

著作権、引用

学校図書館は図書資料の著作権だけでなく、デジタル情報やインタビューなども含めた指導をしています。
レポートでの引用の書き方なども、すべての教科に必要なことです。

※1パスファインダー パスファインダーとは、path(道)finder(見つける人)の意味で、ある特定のテーマについて調べる時に、基本的な図書資料や情報源(図書・雑誌・Web情報など)を簡単に紹介した道しるべ役の情報資料です。学校図書館で作成して教員・児童生徒に提供します。全国SLAサイトにも見本が掲載されています。

※2思考ツール 批判的・複合的に考えるために、整理してわかりやすい形で表現するための道具(ツール)です。

ほかにもいろいろお手伝いできます
司書教諭や学校司書は情報の専門家です
とにかく一度相談してみましよう



3 学校図書館にはどんな資料・情報があるの？

学校図書館には3つの機能があります

学校図書館には、「読書センター」「学習センター」「情報センター」の3つの機能があり、授業に役立つ資料提供・支援を担います。図書室ではなく「学校図書館」です。

「館長」は校長です。

読書センター
読む力の育成
人間性の涵養

学習センター
資料・情報活用で
学習・授業を豊かに

情報センター
情報ニーズへの対応
情報活用能力の育成

学校図書館法……

目的

- ・教育課程の展開に寄与
- ・児童生徒の健全な教養の育成

学校図書館活用で授業改善を

「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童（生徒）の主體的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童（生徒）の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実すること。」（学習指導要領 総則3-(7)）

アナログもデジタルも学校図書館で扱います

学校図書館資料

- ・図書 ・新聞 ・雑誌 ・郷土資料 ・パンフレット ・リーフレット ・地図 ・ポスター
- ・紙芝居 ・DVD・CDなどの音楽 ・映像などの視聴覚資料 ・インターネットのようなネットワーク情報資料 ・新聞データベース ・百科事典データベース ・バリアフリー資料 ・研究紀要 ・ワークシート
- ・実物資料 ・ファイル資料 ・学習成果物（学習で作成した児童生徒の作品） など



利用者

児童生徒
教職員

資料・情報のことは学校図書館に相談してください

- 学校図書館だけで不足の場合は公共図書館等との連携で資料確保できます。
- ICTを活用して児童生徒の端末に著作物も送受信できます。
※補償金は、サートラス（授業目的公衆送信補償金等管理協会）に支払っています。

学校図書館の資料は分類順に並んでいます

どの教科の授業でも使えるように、蔵書割合が考慮されています。

	0 総記	1 哲学	2 歴史	3 社会科学	4 自然科学	5 技術	6 産業	7 芸術	8 言語	9 文学	合計 (%)
小学校	6	3	16	10	16	6	5	8	5	25	100
中学校	6	5	16	10	15	6	5	8	4	23	100
高等学校	7	7	16	12	14	6	4	8	7	19	100

全国学校図書館協議会制定（「学校図書館メディア基準」2021.4改訂より）

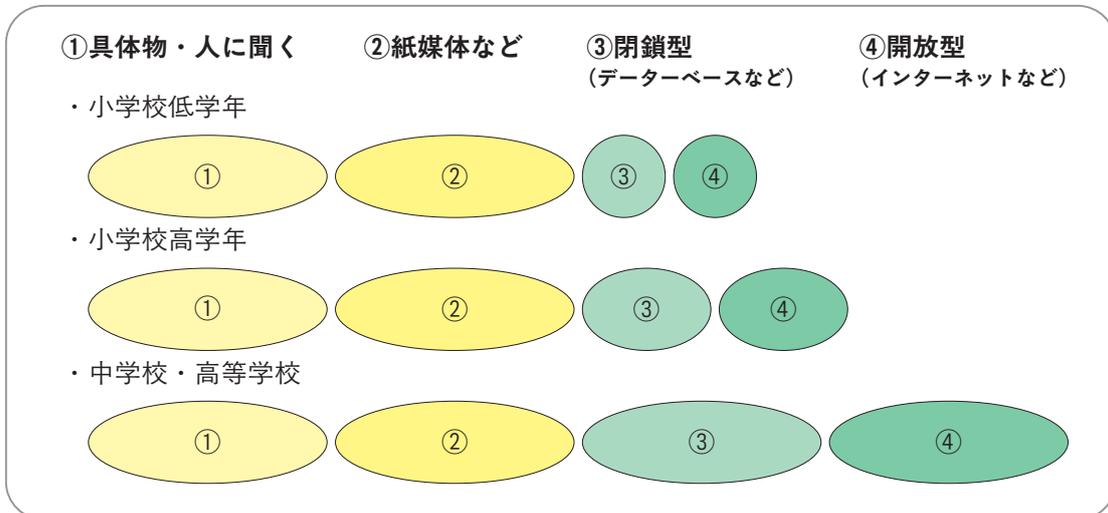
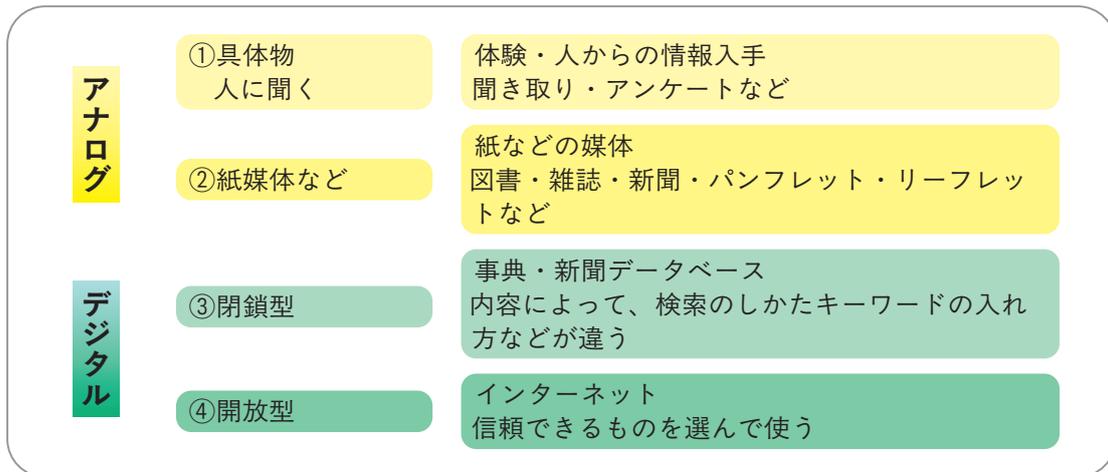


4 発達段階を考慮した情報活用を！

いろいろな資料・情報を使い、主体的に学びながら情報活用能力を伸ばします

発達段階に考慮しながら、授業で多様な資料・情報に接し、さまざまな体験をさせていきます。そして、主体的に学びを深めていく中で、児童生徒自らが、テーマによって適切な資料・情報を探し、選択していく体験を積み重ねていきます。つまり、テーマによって、児童生徒自身がそれぞれの資料情報（紙媒体か、デジタル媒体か）のメリット・デメリットを理解し、使い分けができていくように育てていくことが重要です。

例えば、下記のように段階を経てアナログからデジタルへ、情報の入手先を増やしていくこともできます。

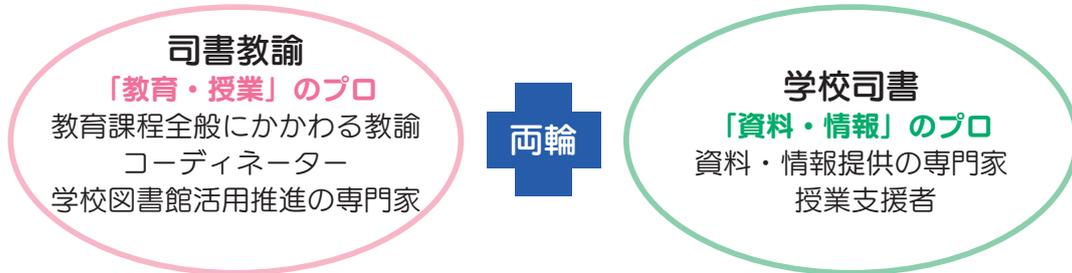


- ・ 発達段階や経験によって①～④の割合が違ってきます。また、テーマによっても割合が異なります。
- ・ アナログでも、デジタルでも情報の入手先を明確にしていくことが必要です。
- ・ 情報の信頼性の確認が重要です。
- ・ 情報の提供、情報の扱い方等の指導など学校図書館がサポートします。
- ・ ICT教育、生徒指導、道徳、学校図書館教育等の担当者と協力し合い、年間指導計画の中で、どこで学校図書館を活用するのかを明確にしておきます。



5 どういう相談ができる？ 「司書教諭」と「学校司書」の働きと役割

司書教諭と学校司書の働きと役割



「司書教諭」は、教育委員会や校長により発令された教諭で、学校図書館の経営を担います。教員が多様な学校図書館資料を適切に活用したり、探究型学習や教科横断型の授業実践を支援したりします。児童生徒が情報資源を活用し、変化する社会に対応できる学びの力を培えるよう学校図書館の3機能を充実させます。

「学校司書」は資料や情報を収集し提供します。図書館資料を活用した授業支援をします。また、関連する情報のブックリスト・パスファインダー等を作成し、提供します。

日常の読書活動のアドバイスや図書館資料・設備・実物資料等の維持管理をします。

司書教諭と学校司書は車の両輪

どんどん相談して授業の協働、連携を深めましょう！

↓ 授業の方法の支援

相談の例1 町の災害対策を調べて発表

情報収集の支援 ↓

- ・意見を入れて発表をするといいいのでは？
- ・発表用のワークシートもありますよ など



- ・災害対策を調べる本やWebサイトを紹介します
- ・パスファインダーを作ります など

相談の例2 校外学習で郷土調べ

- ・こんな授業例もあります
- ・市役所や博物館なども利用しては？
- ・講師派遣もありますよ
- ・地域の人に聞きに行くのもいいですね など



- ・郷土の本のブックトークをします
- ・団体貸出もできます
- ・今の地域のようにすがわかる新聞記事を集めておきましょう など



6 一人ひとりに合わせた配慮・支援を

すべての児童生徒が、自分にあった手段で、本を読んだり情報を得たりすることが必要です。特別支援学校、特別支援学級があります。さらに通常の学級にも学習や行動に困難のある発達障害の可能性がある児童生徒が8.8%存在するとの文部科学省（2022年）の発表もあります。

学校図書館は、一人ひとりの読書や情報獲得の困難から生じてくる必要性に応じて、多様なメディアや支援を適切に提供していきます。まずは学校図書館に相談してください。

子どもたちの読みにくさ、読みの困難に応じて、対応をしていきましょう

読むための補助具、リーディングトラッカーやリーディングルーペを使ってみましょう。どの児童生徒にも、集中して読むために効果的です。

リーディングトラッカー：本文の上に重ねることで、上下や左右の行が隠され、読みたい1行だけが透過して見え、視点を集中させて読むことができます

リーディングルーペ：リーディングトラッカーと同様に使え、文字が拡大されます

また、ディスレクシア（文字の読み書きに限定した困難がある状態）の児童生徒への対処には、

- ・文字のフォントを大きくする
- ・余計な文字を隠す
- ・声に出して勉強する
- ・文の区切りに／を引く
- ・タブレット端末を使う などの方法があります。

障害に応じてさまざまな資料があります。その中で「DAISY 図書」（Digital Accessible Information System と呼ばれる「アクセシブルな情報システム」の略称）がよく使われています。

音声 DAISY（録音図書）：

図写真の説明、目次やページ情報もあり、音声の速さの変更も可能です

マルチメディア DAISY 図書：

文字や画像をハイライトしながら、その部分の音声と一っしょに読むことができます。文字の大きさや背景の色も変えることが可能です

マルチメディア DAISY 教科書：

通常の教科書と同様のテキスト、画像を使用し、音声と一っしょに読むことが可能です



7 AI 時代でも 土台は言語能力・読解力

AI の急速な発展の中で、人間の強みを発揮するための基盤が言語能力であり、読解力です。年齢に応じて語彙を増やし、想像力、思考力、表現力等を伸ばしていくことが重要です。情報を活用するにも言語能力が基盤となります。今、言語能力の育成は学校教育における最大の課題です。

読書をする…

思考力が
深くなる

語彙力が
伝える力、対話力が
豊かになる
強くなる

情報が
得られる

世界が広がる
さまざまな体
験が本の中で
できる

理解力
読解力が
高くなる

心に残った文章の
書きぬき、要約など書く
ことと結びつけると
もっと力は大きくなる



感情の
コントロール
も学ぶ

想像力・判断力が
育成される

「子どもの読書活動の推進に関する法律」（2001年）第二条（基本理念）には、「子ども（おおむね十八歳以下の者をいう。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである」とあります。

子どもたちにとって、読書は趣味ではありません。生きる力です。生きる力を身につけていくために全教科・全教育活動を通じて、言語能力育成に取り組む必要があります。そのために、学校図書館を核にしながら、一人ひとりの教員が丁寧に読書指導に取組みましょう。

「紙の本」か「電子書籍」か… 考慮しましょう 発達段階と健康面！

世界中の脳科学者・発達認知研究者が、深い思考は紙だからこそ獲得できる。紙には操作性があり、視覚、触覚、聴覚等の刺激が記憶にも影響力をあたえ、集中力も勝ると発言している。

世界では、端末重視で学力低下傾向があるとして、紙や手書きへの回帰が見られはじめています。

子どもたちが、将来、紙とデジタルと使い分けができるようにするためにも、学齢が低いうちは紙の経験を充分にさせましょう。そして、読む力も、思考力もつけられるようにしていくことが大切です。

デジタルの使い過ぎで目や身体、心に影響がでるVDT（Visual Display Terminal）症候群などを発症する、健康によくないという調査結果もあります。

情報を得る、情報をまとめる、動画の活用などの道具としては端末を活用し、集中力、深い思考力、想像力を養うために、読書は紙で行っていくことで、端末に向かう時間の軽減も図れます。

2024年度文部科学省委託事業

「学校図書館の整備・活用を進めるための説明・研修資料の作成」

豊かな授業づくりに学校図書館を！

2025年2月28日 発行

編著者 公益社団法人全国学校図書館協議会指導主事研修委員会
発行所 公益社団法人全国学校図書館協議会

〒113-0034 東京都文京区湯島3-17-1 湯島大同ビル
TEL.03-6284-3722(代) FAX.03-6284-3720
<https://www.j-sla.or.jp/>